

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成26年6月号

編 集

発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区三番町9-15

一般社団法人 日本病院会 通信教育課

TEL 03-5215-6647 (受講生専用)

FAX 03-5215-6648 (受講生専用)

URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発 行 日

毎月1日

定 価

1部 150円 1カ年1,600円(税込・送料込)

郵便振替

00190-5-396045

名 義

一般社団法人 日本病院会 通信教育部

正確な病名を得るために

平本 哲也

大崎市民病院 循環器内科 副院長

私の勤務する病院では、現在11名の診療情報管理士が、医事課、学術診療支援室、診療情報管理室などに配置され、レセプトのチェック、医師事務作業補助業務、診療録管理などを通して、医師の負担軽減と病院の収益確保に貢献してくれております。また、今年の診療報酬改定では「診療録管理加算1」が新設され、当院の場合では退院後2週間以内の要約作成という要件を満たせば、年間1000万円以上の収入が見込まれています。この加算は診療情報管理士の仕事が診療報酬で公的に認められ、さらに増額されたことを示すという意味で皆さんにとっては特筆すべき事だと思えます。当院はがん診療連携拠点病院でもありますが、診療情報管理士の一人が専任で、がん登録に従事しており加算の確保に貢献しております。まさに診療情報管理士は、病院経営に欠かすことのできない職種となりつつあります。

当院に診療情報管理士が配置されてから、より正確な病名が要求されるようになり、診療録の充実、診療情報の利用などに大変役立っております。しかし、臨床に携わっている私としては、当院の診療情報管理士の業務を見ていて、気になることが一つあります。それは皆さんの扱っている診療情報の一行一行が、医師や看護師が患者さんと向き合っただけの病歴を聴取し、体を使って得た所見である事をもっと理解してあげてほしいということです。一行を記載するためにどれだけの労力がかかっているかを考えられたことがあるでしょうか。心肺停止患者さんの救命処置を行う救急現場で、医師や看護師が一行の記録を書くのがどんなに大変かに思いを至らせてみて下さい。肺炎でしたら起炎菌を書いて下さいとか、がんでしたら組織型を記入して下さいとか、医師にお願いしたことがあると思えます。どのようにして起炎菌や組織型を決定するのか、ちょっと考えてみて下さい。検体の採取という作業が必要です。喀痰が出ないのかもしれませんが。患者さんが不穏で暴れているのかもしれませんが。出血傾向があり生検に躊躇しているうちに時期を逸したり、患者さんの同意が得られなかったり。確かに医師の怠慢で記入が不十分になっている場合もありますが、上記の様に、正確な病名の得られない事情が臨床現場には多くあり、やむを得ず不十分な病名を記入していることもあります。皆さんは、診療録を机の上だけで見て、「病名が不十分ですから、訂正してください」と事務的に返却していないでしょうか。忙しい毎日の中では難しいかもしれませんが、たまには診療録全体を見渡してみて、正確な診断のできなかった事情がわかれば、このような病名でどうでしょうかと提案してあげるような配慮がほしいと思うことがあります。

診療情報管理士という職種が、本当に病院のチーム医療の一員になるためには、他職種への思いやりがもう少し必要ではないかと考え、あえてこのようなことを書かせていただきました。

